

令和6年3月4日
記録者：高齢福祉課 渡邊

- 会議の日時：令和6年2月20日（火） 13時30分から15時まで
 - 場所：瑞浪市役所 保健センター3階大会議室
 - 出席者：熊澤清和 成瀬和子 井澤功藏 高橋明範 比留間孝 永治昌代 三輪晃治郎
岩島夕夏 片桐千絵 浅川信之 安藤弘美 加藤聖二
 - 事務局：藤本敏子 梅村やよい 長谷川幸 渡邊愛加
 - 議事：
 1. 開会
 2. 民生部次長あいさつ
 3. 委員長あいさつ
 4. 議題
 - 1) 生活支援体制整備事業の概要について
 - 2) 今年度の活動報告
 - 3) 地域ケア会議 地域支援検討部会について
 - 4) 意見交換
～地域の状況・課題の共有と、今後の取組について～
テーマ「高齢者の日常生活の課題に対して、どのような支え合いの仕組みが必要か」
- 【各委員より】
- ・ 過疎化の影響で、職場でも担い手不足。80歳代のスタッフも現役である。地域の中には独居高齢者が多い。支えていきたいと思うが、家族と連絡がとれない中で、生活で悩みのある人をフォローしていかなければならない。町主催のサロンへは、利用者として参加している。看護師も同行し、健康相談の受付も兼ねている。スタッフが集まらない。子育てが終わった方等1日数時間、週2～3日でも働ける方がいれば紹介して欲しい。
 - ・ ボランティアで高齢者を支援しているが、隣近所の助け合いが基本であるが、それが頼めない、身内に頼めない現状があることが残念。市内全域を活動エリアとしているが、宣伝が届いていないためか、瑞浪地区での活動が多い。市外へ出た息子等の実家へ戻る頻度が増えると良い。ボランティアの活動依頼が少ないので、メンバーも減少し、メンバー自体も高齢化している。さきエール会員と役割の違いが分かりにくい。少しでも市民の役に立てばと思う。
 - ・ 民生委員と防災会の活動をしている。地区ごとに年齢等の違いがある。自分が暮らしている地区だけで見ても自治会に入っている人は高齢者が多い。若い人はアパートに住んでおり、自治会未加入。なんとか一緒に地域活性化していきたい。介護者の離職問題、地域でお祭りを辞める等の問題があるが、我々でできるのは日頃の見守り活動。いろいろな人の目で夜の明かり、昼間に新聞が溜まっていないか等、そのような視点で見守り、助け合いをしていきたい。
 - ・ 人口が増えている地域は、アパート。自治会に加入していない、ゴミ出しの問題もあるようだ。民生委員の地道な見守り、新聞や電気の状況を見てもらうのが、高齢者の安心につながる。敬意を表する。今後も身近な活動をお願いしたい。
 - ・ 介護保険のレンタル、ヘルパー、ケアマネ、訪問看護を行っており、自社の中で地域

包括ケアシステムができていと思う。しかし、制度の中でやってあげられない困りごとがあるので、自費サービス事業を行っている。料金は発生するが、ニーズはある。1日24時間のうち、ヘルパーが支援できるのは1時間。他の23時間はどうするのか、他のサービスと協力して行っていきたい。サービスの利用者の中にも自宅内で倒れていたという方もみえるので、できる限り助けていきたい。

- ・ 移動販売事業をしているが、私の親は65歳で現役で仕事もしており、自分で買い物へ行ける。祖母は90歳代で施設に入所しているので、買い物の必要はない。高齢者の中でも自分のことが自分でできて、免許を返納した高齢者がピンポイントで利用している。利用者は減少している。他市を担当するドライバーが辞めてしまった。1人でも多くお客さんを見つけていきたい。お互いWIN-WINになれる関係をつくっていきたい。
- ・ 移動販売は移動手段のない人の助けになりありがたい。採算を考えると大変だと思うが、後期高齢者の見守りができる大切な事業だと思う。
- ・ 元々、地域の中で行っていた助け合いが、高齢化のため成り立たなくなっている。福祉委員の担い手も不足している。自分達の地域を何とかしなくてはという意識が改めて必要。
- ・ 勉強会、懇談会の参加者を見ると、既にいくつかの団体に所属していたり、活動をしている方が多い。そのような方だけでなく、町を歩いている方等、一般の方にも参加してもらえると良いが、それが難しい。市民の意識が上がると良い。
- ・ 隣近所での頼みごと等、支え合いの活動の中では互助が大切だと思う。肩車型の社会の中で、施設でも地域でも担い手をいかに増やしていくのか、取組は手探りである。まずは、今ある活動を継続していくことがポイントである。
- ・ シルバー人材センターでは単なる高齢者の就労の受け皿だけでなく、希薄になりつつある地域社会のコミュニティーを再生し、地域のにぎわいをつくり出していくための一つの核のような存在になるための活動も実施している。部屋の掃除、買い物、調理、通院の付き添い等の高齢者生活支援業務については、担える会員が少ないことが課題となっている。また、シルバー会員同士で交流の場をつくり、生きがいや認知症予防のための取組をしている。
- ・ 長寿クラブ会員も高齢化してきている。催しをし、元気に過ごせるようにしているが、会員の卒業は多いが新規加入が少ない。運営自体も苦慮している。60歳代は働かないと生活が成り立たない、70歳代はシルバーで働くとなると、高齢者が余生を楽しめる時間がない。高齢者が楽に生活できる制度設計ができると良いが。皆がそれぞれの立場で高齢者を支えることとで、この第1層協議体の努めはできていると思う。
- ・ 何かしようかと思ひ、活動できる人は勇気や行動力がある。活動が開始できた所は支援していききたいと思う。
- ・ 困りごとに対する課題、世話になりたくないと思える人への対応等、様々な課題があり、何から取り掛かれば良いのか分からない。
- ・ まずは、頭をひねりやってみる。住民と交流しながら情報共有に力を入れて活動していく。
- ・ 先の見えない問題があり、これが正解なのか分からない所がある。それぞれの立場で努力していききたい。

5. 閉会